

9月27日(日)	第1室	第2室	第3室	第4室	第5室	第6室	第7室
研究発表	(共北25)	(共北26)	(共北27)	(共北28)	(共北31)	(共北32)	(共北38)
9:30-10:10	“Systematic Linguistic Coding Facilitates Children’s Lexical Acquisition” Liu, Nian (University of Hawaii at Manoa [Graduate School])	「一杯」から「いっぱい」へー容器のイメージ・スキーマによる意味拡張ー金奈淑(名古屋大学[院])	「言語における(おやじ)の(地位)についてー(自称)を中心にして」齋藤佳子(名古屋大学[院])	「行為解説の形式ー英語の進行形、単純形、完了形ー」金子輝美(愛知淑徳大学[非常勤])	「連結詞的知覚動詞構文と様態制約:知覚者と知覚対象の際立ちの対立から」中村文紀(慶應義塾大学[院])	「連想語の分類に基づく共感覚比喩理解における類似性と共起性の優先性に関する研究」仲村哲明(電気通信大学[院])、坂本真樹(電気通信大学)	「時間・空間語彙の関係性の認知言語学的考察ー日本語の「間(アイタ)」の広がりを通して」寺崎知之(京都大学[院])
10:10-10:50	“Input skewedness, input consistency, and order of skewed input: Effects of frequency manipulations in adult second language acquisition” Daisuke Nakamura (青山学院大学[院])	「皆/すべて/全部」の意味分析ー統合的スキーマと離散的スキーマの観点から」李澤熊(名古屋大学)	「ナル表現」再考ー膠着語における事態の(主観的把握)の観点からー池上嘉彦(昭和女子大学)、守屋三千代(創価大学)、テキメン・アイシェヌール(アンカラ大学・国立国語研究所)	「<移動>の意味はどこから来るのかーoff NPをめぐって」黒宮公彦(大阪学院大学)	「構文の多義」再考:事例基盤構文理論に向けて」吉川正人(慶應義塾大学[院])	「音は文学を奏でる:感覚表現の定量的分析から視る聴覚の可能性」伊澤宜仁(慶應義塾大学[院])	「フランス語の「bout」における多義性 空間・時間・概念における「末端」のイメージ」新谷真由(筑波大学[院])、カーン・バスノルマンディー大学[院])
11:00-11:40	“The Chien-Ming Wang Phenomenon: A Critical Metaphor Model Analysis of newspaper discourse in Taiwan” Ying-Yu Lin (National Taiwan University [Graduate Institute of Linguistics]), Wen-Yu Chiang (National Tsing Hua University)	「学習辞典編纂のための形容詞の意味ネットワーク記述・試論ー「小さい」を中心にー」今井新悟(山口大学)、森山新(お茶の水女子大学大学院)、荒川洋平(東京外国語大学)	「新動詞の成立にみる意味と形の変化の相関」宇野良子(東京大学)、鍛冶伸裕(東京大学)、喜連川優(東京大学)	「補助動詞構文と主観化ー「やがる」の卑語化をもとにー」澤田淳(京都大学[院])／日本学術振興会)	「名詞反復表現「XXしている」の構文的意味」野呂健一(名古屋大学[院])	「感情のメタファーはメトニミーに基づくか:中国語のケース」韓涛(名古屋大学[院])	「現代中国語自然会話における補文構造を用いたスタンス表現」遠藤智子(日本学術振興会特別研究員(京都大学)、UCLA)
11:40-12:20	“Syllable intrusion in Japanese puns, dajare” Kazuko Shinohara (Tokyo University of Agriculture and Technology) and Shigeto Kawahara (Rutgers University)	「頭」を含む怒りを表す動詞句の意味の成り立ちをめぐり考察」馬場典子(フリー)	「動詞・形容詞のテ形のインプットの頻度と習得プロセスとの関係」ナイダン・バヤマー(お茶の水女子大学大学院)、森山新(お茶の水女子大学大学院)	「「そんな」や「なんか」はなぜ低評価に偏るのか?ー経験基盤的ヒエラルキー構造からの説明ー」中俣尚己(京都外国語大学)	「「のだ」文の多義性についてー文法化の視点よりー」嶋田紀之(東京大学[院])	「比喩理解における主観と喩辞の意味変化:無関連な意味の処理の観点から」平知宏(京都大学[院])、楠見孝(京都大学大学院)	「会話の展開を左右する各参加者の能動的な「知覚」ー生態学的アプローチで捉える会話の実態ー」名塩征史(北海道大学[院])